

特集 歴代会長が語る

京都市の生き方探究教育の歩みとこれから

～未来を見つめる生き方探究教育～

第4代会長
静原小学校 校長
林 久徳 先生



第3代会長
洛央小学校 校長
森 江里子 先生

第2代会長
京都市教育委員会
生涯学習部統括首席社会教育主事
元梅小路小学校 校長
稲葉 弘和 先生



初代会長
京都市総合教育センター
統括首席指導主事
元山王小学校 校長
元凌風学園 学園長
松谷 龍雄 先生



司会
初代研究部長
岩倉北小学校 校長
三浦 清孝 先生

京都市小学校生き方探究・キャリア研究会は、平成22年2月20日に設立され、平成22年度より京都市小学校教育研究会に加入し、研究会活動をスタートしました。8年目を迎えた今年、本研究会の会報誌である「生き・キャリア通信」が創刊50号をむかえることになりました。

「生き・キャリア通信50号」を記念して、歴代の会長先生方にお集まりいただき、「京都市の生き方探究教育の歩みとこれから」について紙面対談を企画しました。

司会 司会の三浦です。よろしくお願いたします。では、座談会を始める前に、ご参加いただきます。歴代会長の皆様を紹介いたします。

何はともあれ、初代会長の松谷龍雄先生です。松谷先生は、研究会の設立にあたって、当時、京都市の生き方探究教育の先導的な役割を果たしていた山王小学校（現凌風学園）の学校長として、「尽力いただきました。その後も、凌風学園の初代学園長として、また、総合教育センターの統括首席指導主事として、生き方探究教育の発展、推進にご指導をいただいております。

つづきまして第二代会長、稲葉弘和先生です。稲葉先生は、生き方探究館設立当時、生き方探究教育担当指導主事として、授業研究・理論研修等の多岐にわたってご指導をいただきました。その後、研究会設立の二年目の平成二十三年度に梅小路小学校の校長・

第二代会長として、研究会の念願であった第一回全国キャリア教育研究大会京都大会の開催を実現されました。現在も、生き方探究教育の理論面を支えてくださっています。

次に第三代会長、洛央小学校の森江里子校長先生です。設立当時、

洛央小学校は小学校キャリア教育の実践校として全国的な知名度が高く、特に、アントリ的な取組や職業的自立に焦点化した取組が主流であった中、「教科」においてキャリア発達を意識した取組をすすめられ、注目されました。平成二十六年度に森校長先生が第三代会長となり、その流れをより強化され、第三回全国キャリア教育研究大会京都大会の第一会場校として、全国への発信を続けられています。最後に第四代会長、静原小学校の林久徳校長先生です。設立当時は、山王小学校の教頭として、それ以前は同校の研究主任・教務主任として京都市の生き方探究教育

の実践面を常にリードされてきました。「生き・キャリア通信」も林教頭先生（当時）が、責任者として創刊され現在に至っています。平成二十八年度に第四代会長に就任されました。第三回全国キャリア教育研究大会京都大会の開催は、記憶に新しいところです。

最後に、司会の三浦です。設立当時の研究部長です。以後、研究会活動に関わっております。

それでは、歴代会長の先生方よろしく願います。

司会 「京都市の生き方探究教育の歩みとこれから」と題して、座談会を企画しましたが、歩みを知る上で、平成二十年頃の京都市の生き方探究教育の様子を教えてください。

松谷 当時は「生き方探究教育」という言葉はおろか「キャリア教育」という言葉も、まだ一般的ではありませんでした。私たちは、職業教育でもない進路指導でもない新たなものを目指していました。

稲葉 当時の文科省のキャリア教育は、「職業観・勤労観を育む教育」として捉えられ、ややもするとキャリア教育とは、職業教育ではないかと思われかねなかった。そこで、京都市ではキャリア教育を「地域・社会の中で生き方を考え、生きる力育む教育」として、キャリア教育とはせず「生き方探究教育」と独自の名前を付けました。また、基礎的汎用的能力も5領域17の力としました。

司会 今とはだいぶ違う状況の中で研究会設立であったようですが、設立の際に、印象に残っていることはどんなことでしょうか。

松谷 生き方探究教育は小学校のみで終わるものではありません。研究会を立ち上げる前に、小・中・高・支援学校で意見交換を行いました。このことをもとに現在の小中が連携した取り組みに発展させていただいたと感謝しています。

司会 林先生は、「生き・キャリア通信」の生みの親ですが、第一号の創刊の思い出はありますか。

林 創刊号を発行したのは、平成二十二年の夏で、研究会発足後初めて開催した夏季研修の記事でした。当時まだ十分な活動もできておらず、研修に参加して下さる方がおられるのか、世話役の先生方が十分な研修が行えるのか、様々な不安の中で行った研修会でした。緊張しながらも世話役の先生方がよく頑張り、研修に参加い



ただいた方と共に学べた研修会で
した。その喜びを、参加したくて
もできなかった会員に届けたい、
今後も研修を深めていきたいとい
う思いで発行した会報でした。当
初は一太郎で作っていましたね。

司会 一太郎ですか、時代を感
じますね。このような中で、研究
会設立二年目に全国大会をされた
わけですね。ご苦労がたくさんあ
ったことと思いますが、いかがで

稲葉 生まれたばかりの研究
会の発表はもちろんですが、校長
になりたてで、しかも校内研究は、
誰も知らない「生き方探究教育」
に変更すること。それに加えて全
国大会で発表することを教職員に
説明し理解してもらうことは、大
変なことでした。第一回の職員会
議で校長としての学校経営方針の
中で教職員に話をしました。ほぼ
全員何をしてよいかわからない
ままのスタートでしたが、意欲的
に研究をしてくれました。そのお

かげで研究を進めるにしたがって
明らかに子どもたちの変容と地域
の方の協力が見られるようになり
ました。

大会当日は、公開授業後に短時
間での生き方探究館へのバス移動
もあり、役員の連携が大変でした
が、生き方探究館のご協力と研究
会員、地域・保護者・学生ボラン
ティアの献身的な協力のもと何と
か盛会に終えることができました。

司会 私も今年校長一年目で
すが、稲葉先生は校長・会長一年
目の中で、よく全国大会を実現さ
れたなと驚くばかりです。

ところで、森先生、第一回京都
大会の頃の洛央小学校の生き方探
究教育は、どのような様子だった
のですか。

森 本校では、キャリア発達の
視点を全教育活動の根底に、特に
生活科・理科の学習において、児
童目らが、事象との出会いから問
題を発見し、解決方法を考え、具
体的な体験や観察・実験を通して



検証し、結果を考察してまとめる
といった問題解決のステップを通
した「課題対応能力」の育成と、
各教科等の学習において、グルー
プで試行錯誤しながら協働的に問
題を解決していく「チーム学習」
を通した「人間関係形成・社会形
成能力」の向上を目指して取り組
んでいました。その頃は、理科研
究会の全国大会に向けて、理科の
教材開発もしていたので大変でし
た。しかし教員がキャリア発達の
視点であらゆる教育活動を見直す

この大切さに気付きはじめてく
れたことが何よりも嬉しかったこ
とを思い出します。

司会 第一回京都大会は、生き
方探究館(スチューデントシティ)
の施設見学と共催であったので、
洛央小学校のすすめていたキャリ
ア教育とはすこし違っていただけ
ですね。また、教科指導の中でのキ
ャリア教育と社会的・職業的自立
を促すキャリア教育との間に隔た
り見られた頃ですね。

生き方探究教育では、「九年間
の学び」を大切にしたい実践をす
めています。この頃に、山王小学
校が小中一貫校の凌風学園になり
ましたが、生き方探究教育の面で
ポイントだと感じられたことは何
ですか。

松谷 義務教育期間の終わり
の子どもの姿をどうイメージする
かということだと思えます。これ
を小学校の一年生の担任の先生が
意識することだと思えます。

司会 新学習指導要領を見る

とますます「九年間の学び」が大切になり、生き方探究教育の重要度が大きくなりますね。さて、つづいて、平成二十五年度に開催した第二回京都大会ですが、印象に残っていることはなにでしょうか。

稲葉 研究会の実践も充実し、各部会で公開授業が複数実践されました。また、梅小路小学校の研究も三年目となり、教科領域のみならず、すべての教育活動で生き方探究教育の視点を取り入れた報告ができました。そして、大会参加者のみならず講演していただ



た文科省の長田調査官や研究をご指導いただいた京教大の高乗先生からも高い評価をいただいたことが大変うれしく印象に残ったことです。

森 全国からとてもたくさんの方が参加されていたことです。全国の方々がキャリア教育に注目されていることにとっても感激しました。そして、もっと研究会のメンバーを増やすことと協力してくださる学校が増えればいいなと思いました。

司会 第二回京都大会は、長田調査官のご講演もあり、内容も一段と充実した大会となりました。この大会以降、梅小路小学校の実践が全国的に知られるようになりました。

また、取組としてのキャリア教育から学校教育の柱としてのキャリア教育へ移っていったように感じています。静岡小学校では、生き方探究教育を柱として学校づくりをされていますが、林先生はど

のようにお感じになっていますか。

林 「自覚的実行力」わたしが校長として目指した学校づくりの核となる理論があります。子どもも教師もこの力が発揮できる学校が実現すればなんて素敵だろう。

今でこそキャリア教育、生き方探究教育という言葉がすいぶん広まってきていますが、私はその言葉を知らないときに、その姿に出会うことができたのです。それは創立から数年後の梅小路小学校での日々でした。それはまさに、キャリア教育の目標が具現化できている姿でした。私は、キャリア教育に理論からではなく、具体的な姿から出会ったので、新しい理論やいろんな変更が出てきても常に焦ることなく具体的なイメージを持つて考え、語ることができました。

「やるべきことがやりたいことになるように」私はこの言葉をさも自分の言葉のように使っています

が、この言葉も実は私が担任していた子どもの口から出た言葉だったのです。

私が経験できたそんな学級・そんな学校に多くの子どもたちや教職員を出会わせてあげたい。その楽しさを味わわせてあげたい。そんな思いを理論づけ、実践していったのが、山王小学校でのキャリア教育の取組でした。そして、その理論を使って、具現化に取り組んでいるのが静岡小学校です。今

静岡校では低学年の子どもや地域の方も自覚の実行力という言葉になじんでいます。

司会 教職員の意識だけでなく、子どもや保護者・地域の意識も大きく変わっていくということですね。特に、地域との関わりでは、番組小学校の流れをくむ洛央小学校はいかがでしょうか。

森 本校の目標の一つに「地域ぐるみの学校づくり・学びを生や社会に活かす」があります。これは「洛央いきいきコミュニティ」を核として学校・家庭・地域の連携を図り、祇園祭をはじめ

地域の伝統的な文化や産業、あるいは人を教材化した体験的な学びの展開を大切にしています。このような学びを展開することで、地域に愛着を感じ、地域の次代を担う子どもを学校・家庭・地域の連携の下で育てることをねらいとしています。

さらに総合的な学習の時間では、学年に応じた地域学習の推進を図っています。高学年になるにつれて様々な生き方について学ぶ機会をもつことで、今学校で学んでいることと、将来とのつながりについて考えたり、具体的な目標がもてたりすることを目標としています。

これらの学びは、社会と連携・協同しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を育ていくためにも続けていきたいと考えています。

司会 取組から学校教育へと生き方探究教育の輪が広がる中で、第三回京都大会の開催となりました。

た。この大会から京都市中学校生き方探究教育（キャリア教育）研究会と共催となり、また、洛央小学校・錦林小学校・梅小路小学校の三会場で公開授業が行われました。

第二回京都大会から三年、満を持しての全国大会でしたが、いかがでしたでしょうか。

林 「しんどかった。でも、やってよかった」というのが正直な感想です。会長に就任して八か月後には大会を迎えることが決まっていました。この大会が今までと大きく違う点が二つありました。司会の方もおっしゃっているように一つ目は三校開催ということ。本研究会にはとても三つの会場を運営する力量がないことはわかっていました。でもやるしかないのです。もう一つの特徴としては、中学校のキャリア教育研究会と合同開催ということでした。中学校とどうコラボするのか、その連携がうまくいくのかが大きな



課題でした。いろんな困難はありましたが、三校の校長先生はじめ教職員の皆さん、小林事務局長、三浦研究担当役員、多くの研究部員が力を合わせて大変すばらしい大会になったことと思います。また、この大会をきっかけに、全国に仲間を増やそうという機運が高まってきました。

司会 このように歴代会長のリーダーシップのもとで、研究会発足八年が経過し、「生き・キャリア通信」も五十号を迎えることがで

きました。これからは、ますます学校教育の中で、生き方探究教育の重要度が大きくなっていくと感じています。最後に、歴代会長の先生方から、「未来をみつめる生き方探究教育」として、生き方探究教育及び研究会のこれからにエールをいただきたいと思います。

松谷 自分の生き方をデザインのできるための様々なツールを獲得できる教育は、生き方探究教育だと自信をもって頑張ってください。

稲葉 次期学習指導要領では、つきたい資質・能力を明確にすることが求められています。すなわちキャリア教育の視点ですべての教育活動を見直し、進めることであると考えています。キャリア教育という言葉は、一部でしか出ていませんが、研究会が進めてきたことが、どの教育活動においても生かされるのではないかと思えます。ただ、地域とともにある学校づくりが京都市の生き方探究教育

の原点でありますので、地域の人も含めた資源を生かした実践的な学びを前面に押し出した生き方探究教育を推進していただきたいと思います。

森 私は、これからの教育は、キャリア教育が全ての教育のベースだと言っても過言ではないと思っています。つまり各校の「カリキュラム・マネジメント」を作成する時にキャリア教育の視点を意識することが重要だと思っております。

「カリキュラム・マネジメント」は学習指導要領に合わせて各学校が教育内容を組み立てていくわけですが、答申では、「学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していく」ことを「カリキュラム・マネジメント」と呼び、重視しています。「学校教育の改善・充実の好循環を生み出す」というわけです。

答申では、具体的に、教科横断的な視点、子どもや地域の現状にあわせて改善し続けること、外部

の資源を効果的に活用すること、の三つの側面で「カリキュラム・マネジメント」を捉えています。

*各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

*教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。

*教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

(答申 p23-p24 抜粋引用)

この中でも、研究会として、新たな試みをしていただきたいのが幼稚園・保育園と小学校のつながりを重視したスタートカリキュラムおよび小学校と中学校のつながりを意識したカリキュラムや単元

の作成です。そして、これらを作成するにあたってキャリア発達の視点を入れることです。

各校の状況は違っているかもしれませんが、そのプログラムを実施し、評価して改善を図ることが、今後、幼稚園・小学校・中学校のつながりの強いキャリア教育へと広がっていくのではないかと考えられます。

これからの生き方探究・キャリア教育研究会は未来に生きる子どもたちのためにも重要な役割を担っていると思います。皆様を力を結集すれば、必ず道は拓けていくと思います。ご活躍を祈っています。

林 私が願っていることが二つあります。一つ目は研究会のそれぞれの部が自立することです。それぞれの部で一人一人が主体的に活動を進め、他の部と関わることで相乗効果が生まれればと思っています。二つ目は、全国小学校キャリア教育研究会の創設です。

そのために、東京や大阪、宮城などいろんな地域の方と出会い、全国キャリア教育学会をはじめいろんな組織の方と関わらせていただいで準備を進めてきています。今年度中には道筋をつけたいと思っています。

司会 歴代会長の先生方、ありがとうございました。今後東京都市の生き方探究教育の発展・推進に努めてまいります。引き続きのご指導よろしくお願いいたします。では、次回は百号記念の時によろしく願いたします。

